

生徒会だより

8月21日発行



8月8日に、衆議院第一議員会館多目的

ホールにて各都道府県の高校生が集まって環境問題について学習する『OCEAN'S47』という企画が行われました。今年はい

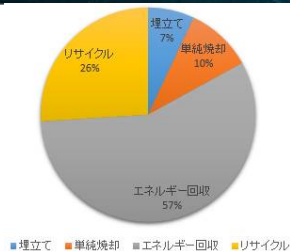
洋プラスチックごみ問題というテーマで開かれ、多くの方から貴重な話を聞く事ができました。そこで、今回の生徒会ナよりでは、そこで学んだ海洋プラスチックごみ問題について、生徒会員によく知ってもらおうと思います。

1. 海洋プラスチックごみ問題とは

まず、海洋プラスチックごみ問題について知らない人が多と思うので、その説明をします。

海洋プラスチックごみ問題とは、人間が海にポイ捨てしたプラスチック製品が原因で起こる問題のことです。

通常、物が海に捨てられたとしても、時間が経つと海の中で分解されてしましますが、プラスチックは分解されるまでに途方もなく長い年月を要し、ほとんど分解されることはないと考えていいほどです。そのため、海の中ではプラスチックごみで溢れてしまい、多くの魚や海鳥が体を傷つけたり、それらを餌と間違えて食べ、死んでしまっているそうです。



2. 現在行われている取り組み

現時点で海洋プラスチックごみ問題を防ぐためにできることは、主に①プラスチックを使わないこと ②使用したプラスチックをポイ捨てしないこと、再利用することの2つだと考えられます。

①に関して、紙製品を使えばよいと思う人がいると思いますが、現在使用されている紙コップや紙パックの内側は、プラスチックによってコーティングされているため、プラスチックの使用量は減りますが、結果として海にプラスチックが捨てられなくなるというわけではないのです。

②について、株式会社セブン&アイ・ホールディングスでは、関東を中心に、客の持ってきたペットボトルを回収し、再利用して飲料水の販売に使う100%再利用のペットボトルを作っているそうです。また、マクドナルド株式会社では、使わなくなったハッピーセットのおもちゃを回収し、店内で使うトレイに再利用しているそうです。生徒会の皆さんも、もし買って飲み終わった飲み物のペットボトルや、使わなくなったハッピーセットがあれば、回収してもらいに行くといいかもかもしれません。

3. 私たちにできる取り組み

海にゴミがポイ捨てされる原因の一つに、周りにゴミ箱がないことが考えられます。海外に比べると、日本は道端などに設置されているゴミ箱の数が非常に少ないそうです。環境省の方の話によると、その理由の一つに家庭ごみを買って捨てることにあるそうです。家庭ごみを捨てることを許さない雰囲気づくりをすることで、街中などにゴミ箱が増え、結果ポイ捨ての減少につながるかもしれません。

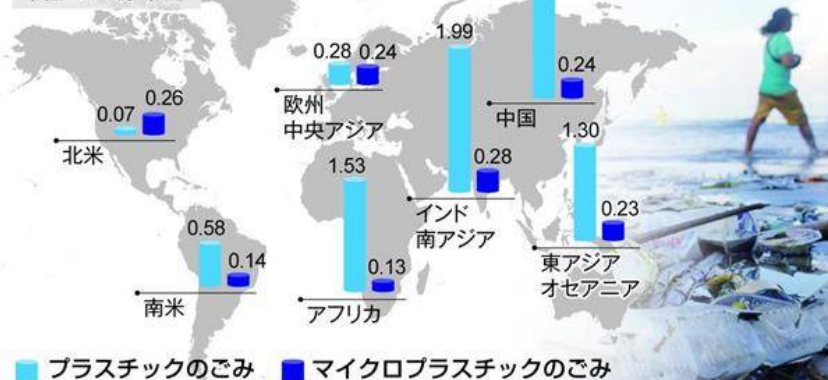
また、今回参加していた高校生の多くが、学校の課題研究等でこの問題について研究している人でした。社会科の視点から考えている人もいましたが、もし興味があれば、海で溶けるプラスチックや、プラスチックに代わる便利な物質を作ることについて課題研究でやってみるのも一つではないかと思いました。

最後に、今回の企画を主催して下さった、にこにこ一般財団様、支援して下さった日本財団様に感謝申し上げます。

プラスチックごみの海への流出量

※国際自然保護連合(IUCN)の2017年報告書から

単位:100万ト/年



インドネシア・バリ島の海岸に散乱したプラスチックのごみ=2018年4月(ロイター)

作成者..青梨光祐